C100 M100 Y100 K100 3面 A4

シリーズ 地域包括ケアシステムの構築にむけて③

福祉のまちづくりを実現するために ～まちづくりは福祉から～

三潴校区まちづくり振興会は、自治体の合併を機に小学校区をエリアとしたコミュニティ組織の再編が図られるなかで、設立されました。三潴校区まちづくり振興会では自治会長や民生・児童委員をはじめとする皆さんが一体となって、地域の支え合い体制を作り上げてこられました。

三潴校区では、校区社会福祉協議会（ふれあいの会）の訪問活動が1万5千回を超えるなど、地域の見守り体制が出来つつあり、自治会ごとのサロンへの取り組みや空き家対策が進むなど校区まちづくり振興会と校区社会福祉協議会がひとつになって活動しています。今回は、三潴校区まちづくり振興会会長稲田善嗣さんに、福祉のまちづくりに対する思いを伺いました。

セーフコミュニティを具現化する地域福祉

三潴校区
まちづくり振興会
会長 稲田善嗣さん

三潴校区の住民はおおむね半数以上が校区外からの転入者です。そのため、まちづくり振興会では新旧住民の交流など、親睦を深め合う機会を年度初めから企画し実施しています。

住民の郷土への思いは、日頃の生活課題や地域情報を共有し、協働の活動を通じ、連帯感を育む中で培われるものです。

まちづくり振興会では、①自治環境、②生涯学習、③地域福祉、④青少年育成の4部会がそれぞれ目標をもって事業を展開していますが、独居や高齢者のみの世帯が多く、高齢化が進む現状で、地域福祉の課題を真正面から捉えて活動する地域福祉部会は、コミュニティ形成にとって誠に頼りになる存在です。

中でも日頃から防犯を始め、子どもたちの安全に関わることで、自らの居場所や生き甲斐づくりを行動で示しておられる高齢者は、正に支え合い活動のお手本と言えるでしょう。

協働のまちづくりを推進していく上で大切な核である地域福祉部会は、地域包括ケアシステム具体化の為のネットワークづくりを目指して、様々な事業を展開してきました。

今後は「支え合い推進会議」の取組みを進める為に、互助・共助の精神高揚に的を絞りながら、高齢者の課題解決へ向かって支え合う住民の姿を具体的にイメージし、体制づくりを進めていきたいと考えています。

校区食事会での高齢者と児童の交流

日本赤十字社からのお知らせ

～平成29年4月から社員制度が変わりました～

日本赤十字社では、赤十字の活動をご理解いただき、毎年500円以上の社費を納めていただく人を、これまで「社員」としていました。

この社員制度は昭和27年から続いており、時代に合わないとの指摘もあることから、平成29年4月1日より制度が見直されました。

変更の内容

①名称が変更されました。
- 「社員」⇒「会員」　・「社費」⇒「会費」
- 「社資」⇒「活動資金」

②活動資金としてご協力いただく幅広い支援者（個人・法人）を「協力会員」としました。

※「会員」は年額2,000円以上ご協力いただく人です。会員には、機関紙「赤十字 NEWS」などが年数回送付されます。
※「協力会員」は、年額2,000円未満の活動資金にご協力いただく人です。
※これまでどおり、活動資金は500円を目安にご協力をお願いいたします。

5月は赤十字月間です

～活動資金へのご協力をお願いします～

ご協力いただいた活動資金は日本赤十字社の3つの活動領域で、活用させていただいております。

いのちを救う
自然災害、紛争、飢餓、病気・・・。医療や災害救護などの活動をおこなっています。

ひとを育む
看護師の育成はもちろん、青少年ボランティアの実施などをとおして、技術や知識、そして想いを、未来へとつないでいます。

せいかつを支える
全国で福祉施設を運営しながら、ボランティアのみなさんと一緒に、地域に密着した幅広い活動をおこなっています。

【問合わせ】日本赤十字社久留米市地区（市社会福祉協議会内）
TEL 0942・34・3035　FAX 0942・34・3090